

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 クリーピング A
会社名 町田商事株式会社
住所 東京都練馬区東大泉 7-25-1
電話番号 03-5905-5670
FAX 番号 03-5905-5674

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 区分 3
眼に対する重篤な損傷性／刺激性 区分 2

※上記で記載の無い物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性は区分に該当しない（分類対象外含む）又は分類できない

GHS ラベル要素・絵表示



注意喚起語 警告

危険有害性情報 強い眼刺激
軽度の皮膚刺激

注意書き・安全対策 保護手袋・保護眼鏡着用
スプレーでの使用はミストを吸入するので不可
応急措置 原液は浸み痛みがして飲み込めないが希釈液を飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受ける 4 項参照
保管 密栓した容器で直射日光を避け換気の良い暗所で保管する
塩素と混触すると二酸化塩素ガスが発生する
他の薬品と混触不可
廃棄 内容物、容器を都道府県、市町村の規則に従って廃棄する

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
化学名又は一般名・成分・含有量・CAS No.
クエン酸 30% CAS No.5949-29-1
氷酢酸 0.9% CAS No.64-19-7
過ギ酸 CAS No.107-32-4 有機酸 他

4. 応急処置

- 吸入した場合
 - ・直ちに被災者を新鮮な空気の有る場所に移し症状により医師の診察を受ける
- 皮膚に付着した場合
 - ・直ちに水で良く洗い流す
- 目に入った場合
 - ・直ちにまぶたを開いて流水で洗眼し症状により医師の診察を受ける
- 飲み込んだ場合
 - ・刺激痛がして飲み込む事は出来ないが希釈液を飲み込んだ場合は直ちにアルカリ飲料を飲ませ症状により医師の診察を受ける

5. 火災時の処置

- 適切な消化剤
 - ・不燃性物質 周辺火災に適した消化剤を使用する
- 使ってはならない消化剤
 - ・特になし
- 特有の危険有害性
 - ・特になし
- 特有の消化方法
 - ・危険でなければ容器を火災区域から移動する
- 消火活動を行う者の保護具
 - ・空気呼吸器を含め防護服（耐熱性）を着用する

6. 漏出時の処置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 - ・簡易雨具、保護手袋・眼鏡を着用し風上で作業する
- 環境に対する注意事項
 - ・河川に流れない様にする
- 回収 中和方法
 - ・多量の場合は石灰乳で中和し多量の水で濯ぎ流す
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材
 - ・危険で無ければ漏れを止める

7. 取り扱い及び保管上注意

- 取扱い
 - 技術的対策
 - ・作業中は換気を良くする・保護手袋眼鏡を使用する
 - 環境により簡易雨具着用
 - 安全取扱い注意事項
 - ・送湯管洗浄時、斜面での容器転倒に注意する
 - ・容器を転倒若しくは落下する等の衝撃を与えない
 - ・予め分解するか否かを確認する
 - ・塩素系、アルカリ等とは混触しない 取り説参照
 - 接触回避
 - ・10 項参照
 - 衛生対策
 - ・取扱い後はよく手を洗う
- 保管
 - 技術的対策
 - ・換気設備を設け密栓した容器で直射日光を避け換気の良い暗所で保管する
 - 混触危険物質
 - ・塩素系とは混触しない（二酸化塩素ガスが発生する）
 - ・強アルカリ物質と混触しない アルミ製品は不可
 - 安全な保管条件
 - ・密栓した容器で直射日光を避け暗所で保管する
 - 安全な容器包装材料
 - ・ポリエチレン等の石油製品を使用する
 - ・発泡スチロール、ガラスは不可

8. 暴露防止及び保護処置

管理濃度	・ 設定されていない
許容濃度	・ 設定されていない
設備対策	・ 局所排気又は全体換気装置を設置する
保護具	
呼吸器の保護具	・ 状況により保護マスク
手の保護具	・ ゴム手袋
眼の保護具	・ ゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び身体	の保護具・ 状況により雨具着用 特に外部における配管洗浄の場合

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	色	・ 無色(透明若しくは淡黄色)液体
臭い		・ 無臭に近いが幾分の酢酸臭がする
比重		・ 1.117 (20℃)
P H		・ 2 ～ 3.5
沸点		・ 80℃を超える
凝固点		・ データ無し
融点		・ データ無し
引火点		・ 不燃性
蒸気圧・密度		・ データ無し
相対ガス密度		・ データ無し
燃焼・爆発範囲		・ 不燃性物質
自然発火点		・ 不燃性物質
分解温度		・ データ無し
動粘性率		・ データ無し
n-オクタンール/水分分配係数		・ データ無し
溶解度		・ 水に溶解
粒子特性		・ データ無し
危険有害反応可能性		・ データ無し
避けるべき条件		・ 直射日光、熱、強アルカリ物質との混触
危険有害な分解生成物		・ データ無し

10. 安定性及び反応性

反応性	・ 此の製品自体は反応しない
化学的安定性	・ 通常取扱条件下では安定である
危険有害性反応	・ 特に記す事はない
避けるべき条件	・ 高温及び衝撃による破損 他の工業薬品と混触しない
混触危険物質	・ 塩素系物質 ・ 二酸化塩素ガスが発生する
危険有害な分解生成物	・ 高温にすると含有成分が放出する

11. 有害性情報

急性毒性 経口	・ 区分に該当しない
急性毒性 経皮	・ 区分に該当しない
急性毒性 (吸入・気体)	・ 区分に該当しない
急性毒性 (吸入・蒸気)	・ 分類できない
急性毒性 (吸入・粉塵・ミスト)	・ 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	・ 傷口に於いて浸み痛み 軽度の皮膚刺激 区分 3

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性・強い眼刺激 区分2

即洗眼しないと角膜を損傷するおそれがある

呼吸器感作性	・分類できない
皮膚感作性	・分類できない
生殖細胞変異原性	・分類できない データ無し
発がん性	・分類できない IARC・NTP・産衛学会に記載されていない
生殖毒性	・分類できない データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	・分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	・分類できない
誤えん有害性	・分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) ・分類できない

水生環境有害性 長期(慢性) ・分類できない

残留性・分解性 ・生分解良好 残留性無し

生体蓄積性 ・ 無し

土壌中の移動性 ・ 無し

オゾン層への有害性 ・分類できない データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・多量の場合は石灰乳で中和し多量の水で希釈して廃棄
(Ph5.8～8.6以下)

- ・河川法及び地方条例に従う事

汚染容器及び包装 ・ 空容器を廃棄する場合は良く濯ぎ洗いする事

14. 輸送上の注意

航空規制情報 ・ ICAO/IATA の規定に従う事

特別な安全対策

- ・荷崩れ防止を確実に行う

15. 適用法令

労働安全衛生法 ・ 非該当

消防法 ・ 非該当

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) ・ 非該当

毒劇法（藥事法） ・ 非該当（普通物）

水質汚濁防止法 ・ Ph5.8 以上 8.6 以下にして廃棄する ・ 地方条例に従う事

16. その他の情報

・事故災害例無し

引用文献 ・ 化学薬品混触危険ブック東京消防庁編

・厚生労働省生活衛生局化学品安全課

・(社) 日本化学工業会

・化学工業日報

本 S D S は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています